

第45回経営協議会議事録

1. 日 時 平成27年6月23日(火) 14時00分～15時30分
2. 場 所 ホテルクラウンパレス浜松 3階 松の間
3. 出席者 中村(議長)、伊藤、上杉、猿田、篠原、永井、御室、村本、鈴木、前田、晝馬、
今野の各委員
陪 席 小出理事(教育・国際交流担当)・副学長、針山副学長(情報・図書館担当)、
蓑島副学長(研究担当)、西山監事

4. 議事録の確認

第44回経営協議会議事録(案)を原案どおり確認した。

5. 議 事

(1) 第3期中期目標・中期計画(素案)について

議長から、第3期中期目標・中期計画(素案)について各分野における重点事項を中心に説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(2) 平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

議長から、平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について、全体的な状況の中から主な成果について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(3) 平成26年度決算(案)について

前田理事から、平成25年度決算(案)について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

西山監事から、監査報告書に基づき監査の方法の概要及び監査の結果について、適正なものであると報告があった。

(4) 平成28年度概算要求(案)について

前田理事から、平成28年度概算要求(案)について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(5) 規則の改正について

人事課長から衛生管理手当の新設に伴う準職員就業規則の改正について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(6) 報告事項

国立大学法人における会計監査人の選任について

議長から、平成27年度会計監査人の選任について、文部科学大臣より「有限責任あずさ監査法人」を選任した旨の通知があったことについて、報告があった。

次回の経営協議会について(平成27年11月27日開催予定)

※学外委員からの主な意見（○：学外委員の意見等、◆本学側の意見・説明等）

議事（１）第３期中期目標・中期計画（素案）について

- 総合診療医実習と新専門医制度の関連を大学としては、どのようにとらえているのか。
- ◆菊川や森町にある家庭医療センター等を中心に、総合診療の実習を行うだけでなく、大学院生などが研究等を行い、専門医資格の取得ができるように整備を進めていく計画である。
- 診療と研究が切り離されているように感じるが、しっかりと連携のとれた臨床研究を行ってほしい。
- ◆臨床研究も重要だと考えており、支援体制などの整備を進め、レベルの高い臨床研究を実施していく。
- 看護学科の強みや特色を活かし、医学科とともに浜松医科大学を盛り上げて行ってほしい。
- ◆看護学科については、専門性の充実を図るなど教育・研究に力を入れていく。
- 浜松医科大学として、医療を通して地域企業と連携し、より一層地域の活性化に貢献していただきたい。
- ◆地域企業との連携は非常に重要と考えており、今後も医療、医学を通じて、地域の活性化に貢献していく。
- 今後、国立大学法人を取り巻く環境は厳しくなっていくことが予想されるため、組織の検証をしっかりと行っていくことが必要になるのではないかと。
- ◆さらなる機能強化のため、戦略的な機能を持った組織の整備や寄付金の受け入れに対する体制の整備等を行っていく。
- 医師会としても、医師の育成を浜松医科大学と協力し、行っていきたい。
- ◆浜松医科大学としても医師会や県と連携し、医育機関の役割をしっかりと果たしていきたい。

議事（２）平成 26 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

- 静岡大学に完成したCOI拠点棟をどのように活かしていくのか、非常に重要なポイントになるのではないかと。
- ◆COI拠点棟での研究が呼び水となり、新たな研究等につながることを期待している。
- 教育において、グループ学習を重視しており、非常に良い取組だと感じるため、ぜひ継続してほしい。
- ◆スペース等の問題はあるが、今後も引き続きグループ学習を促進させていきたい。
- 地域創生に対する浜松医科大の役割が問われているように感じる。地域医療や学生の教育等について、発想の転換を迫られるのではないかと。その為、県や企業、医師会といった関係者との連携を密にすることが重要だと感じる。
- ◆浜松医科大学としては関係者との強固な連携を継続するとともに、静岡県医師会不足解消に向け、地域に根付いた医療者の育成を行っていく。